

## インド 国際支援

### ●インド・学校活動概要

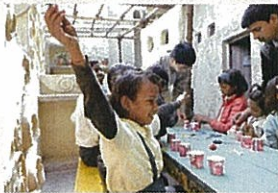
近年、経済成長が著しいと言われているインド。数年後には人口が中国を抜き、世界一になると言われています。1950年に廃止されたカースト制度ですが、未だに根深く残り、自由な職業選択はまだ出来ていないのが現状です。富裕層の経済状況が上昇する一方で、貧困層との格差は広がるばかりです。識字率も世界137位、75.6%（当校のある州は28州全体下位から5位約56%）と政府機関の教育向上計画とは裏腹に伸び悩んでいます。教育を提供する事が義務であるインドでは、多くの学校がありますが、良い教育を受けれるのは富裕層の子どもたちだけです。未だスラム街も多く残り、教育を受けられない子どもたちも沢山居ます。そんな状況を打破すべく、オンザロードでは2008年に、日本人ボランティア83人が、インド人大工と共に学校を建築。それから現在まで、私立小学校となったこれからも、一切の学費を無料とし、誰でも通える学校として、初等教育を提供しています。

児童数：約30名 授業：月曜日～土曜日 10:00～14:00（酷暑期8:30～12:30）基礎科目：ヒンディー語、英語、算数、理科、社会、図工  
特別授業：ボランティアに来ていただいた方が特技を活かし、誰でも先生になれるクラスです。ダンスやサッカー、職業紹介、音楽の授業など、児童にとって世界の様々な文化に触れる貴重な時間であり、ボランティアにとっては、自らの特技を用いて子どもたちの見聞を広げる国際貢献が出来る交流の場となっています。  
スタッフ：インド人スタッフ5名 日本人スタッフ3名 2014年3月までのボランティア数：2,937人



### ●フリースクール運営

インドは義務教育ではありませんが、教育を受けるのが義務ではなく、提供することが義務なので、学校に通えるかはその家庭の経済状況次第となり、貧困層の子どもたちの多くは学校に通っていません。当校では貧困層の子どもたちへ、初等教育を提供しています。4歳からの幼児クラス、1年生から5年生まで合計6クラスに分け、各クラスにインド人教員を置き、指導をしています。各クラスに担任が着くことにより、子どもたちの理解度や進捗を鋭角に把握し、教員達が子どもたちに相応しい授業カリキュラムを作成することが出来ています。必須科目のヒンディー語、英語、算数、理科、社会の5教科、更に図工や体育の授業も実施しています。



### ●特別授業

ボランティアに来られた方の特技を活かし、先生となり授業をして頂ける時間です。今年度も沢山の特別授業を行い、子どもたちの知識も広がりました。理科の実験と遊びを融合したものや、インドの国技クリケットやカバディ、習字、他国の言語、日本の伝統文化などを学びました。この授業から、子どもたちの知識もぐんと広がっています。他校には無いカリキュラムは、子どもたちの楽しみともなっています。特別授業を行うボランティアの方々には、この時間の交流を通し、途上国、貧困の現実を肌で直に感じてもらい、恵まれた国に生まれ、「自分に何が出来るのか」「自分がすべきことは何なのか」などを考えて頂くきっかけになればと考えています。

### ●スタディーツアーの催行と受け入れ

2014年度は、オンザロード主催のスタディーツアーを、2回催行することが出来ました。最大1週間という期間の中で、貧困層の現状を知っていただくため、家庭訪問に行ったり、交流プログラムでは、子どもたちと一緒に出来るものを企画したりと、普通のツアーでは経験が出来ないオリジナルスケジュールで実施しています。また、H.I.S.様と協同行うスタディーツアーを2回受け入れました。今後も、途上国の現状、貧困層の生活、子どもたちとの触れ合いを通し、直に目で見、肌で感じてもらう、豊かな日本から出来ることや、何かを考えるきっかけ作りとなるよう、更に、子どもたちへ沢山の知識が増えるよう、継続してスタディーツアーの催行・受け入れを行います。



### ●子どもたちの手作り物販売

図工の時間に、ネックレスやブレスレット、しおりなどを、子どもたちが一生懸命製作しています。将来的に少しでも多くの技術を持たせたいと、この授業を毎日行っています。今年は刺繍を多く行い、ポーチや小物入れなどが増えました。以前は、お手本通りに製作していましたが、今では独自のデザインを刺繍したり、色の組み合わせを考えたりと、子どもたちの感性で製作しています。日本の方々の手に渡り、使ってくれることを子どもたちはとても嬉しく思い、一つ一つ心を込めて丁寧に作ることを心がけています。完成しても、出来に満足出来ない、全部ほどいてやり直したり、製作開始前に、紙にデザインを書いてから始めたりと、どうすれば満足いく商品を作れるかなど、子どもたちなりに試行錯誤して制作しています。



生徒の声  
**NISHA KUMARI**  
ニーシャ・クマリ (12歳)

初めまして、ニーシャです。3年生のクラスでマダン先生の下、厳しいながらも、毎日楽しく勉強しています。私は図工の刺繍授業が大好きです。この刺繍した物が、日本の誰かの手に渡ることをご想像すると、とても嬉しくなります。そして、私達が学校に通うことが出来るのは、そのおかげでもあることに感謝しています。本当にありがとうございます！私の将来の夢は、先生！これからも一生懸命勉強して素敵な先生になります！



駐在員の声  
**林 寛与**  
はやし ひろよ (35歳)

私がここで駐在から学んだことは本当に数多く、言葉では言い表せないくらい全てが宝物です。毎日、子どもたちから沢山のことを教えてもらっています。インドは、日本とは全く異なる環境、文化、あり得ないことがあり得る国ですが、子どもたちの笑顔ややる気の根源として、一步一步着実に進んでいます。これからも学校に通えない多くの子どもたちへ、教育支援が出来るように奮闘していきます！



インド人教員の声  
**MADAN JHA**  
マダンジャー (24歳・3年生担任)

初めまして、3年担任のマダンジャーです。私は、マザーベイビースクールでの教員を始めてから沢山のことを学び、毎日素晴らしい経験を積んでいます。日本人の方々と触れ合える特別授業の時間は、子どもたちにとっても、我々にとっても、良い経験となっています。これからも最高の学校にするために、良い指導を心がけたいと思います。日本からのご支援の下、この学校で働くことが出来てとても感謝しています。本当にありがとうございます。

### ●今後の展望

当校には、経済的な理由から、卒業後には働かなくてはならない子どもたちが多くおり、希望の職、収入の安定した職に就くためには、大学まで進学をさせたいと、私たちは考えます。そのために、一人の子どもに一人の支援者という形で、「チャイルドサポーター」制度を開始し、当校卒業後の継続的な進学支援をお願い出来ればと考えております。これにより、子どもたちは進学が可能となり、将来への希望が広がります。また支援者の方々は、第二の親として、速く離れていても支援を通して、応援することが出来ます。更に、当村の職を持たずに家庭にいる女性を雇用して、フェアトレード商品製作販売を計画しています。これは、家庭の経済支援をし、子どもたちに家業の手伝いをさせず、通学させること、更に先々への進学費用を捻出することが目的です。

## ジャマイカ 国際支援

2009年11月、音楽を始めとする文化的な放課後教室「Japan Music&Cultural Center」を設立。音楽大学の学生による楽譜の読み方、演奏方法などの音楽教室とカボエラ教室が行われています。現在は、治安の悪化、現地の情勢を考慮し、2013年より、施設・運営を現地パートナー団体UNIA（世界黒人開発協会）に引き継ぎました。今後も、協力関係は維持しつつも、運営主体はUNIAとなり、オンザロードは1協力団体として応援して参ります。